

ぶどう算の まちがいさがし 五

まちがいがない こともある

なまえ _____

ひづけ _____

もんだい

この 紙には ぶどうが 4つ ある。どの ぶどうも、まちがい 1か所 ある か、1か所も ない か の どちらか。いちばん 上の だんは 合っている。しらべる □は ない。

きまり

この 図を ぶどうと いう。となりあう 2つの 数を たした 数が、2つの 間の 下の ますに 入る。

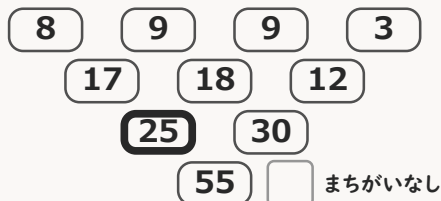
やりかた

- ① ぶどうは、左下の 番号 (1)から (4)の じゅんに 1つつ しらべる。1つの ぶどうでは、2だん目の 左はしの ますから、上の だんから 下の だんへ、おなじ だんでは 左から 右へ しらべる。その ますの ななめ上の 2つを たした 数と、ますの 数を くらべる。
- ② 合わない ますを 見つけたら、まわりを ぐるっと かこむ。ほかの ますは しらべなくて よい。
- ③ 「正しい 数」の □に、まちがえた ますの 正しい 数(ななめ上の 2つの 和)を 書く。
- ④ 「正しい 数」の となりの「直した 下の 数」の □に、まちがえた ますを 正しい 数に 直したとき、いちばん 下の ますが いくつに なるかを 書く。まちがえた ますの 1だん下から いちばん 下の だんまで、頭の 中か 紙の すみで 1だんずつ たし直す。ぶどうの 数は 書きかえない。
- ⑤ どの ますも 合って いたら、その ぶどうの 右下の「まちがいなし」の □に ○を 書く(「正しい 数」「直した 下の 数」の □は 空ける)。

こまったら

いちばん 下の ますが まちがいの ときは、「正しい 数」と「直した 下の 数」は おなじ 数。

れい



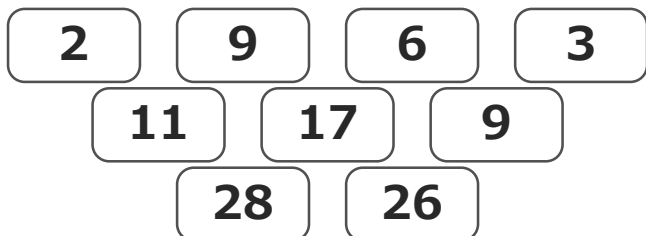
2だん目: $8+9=17$ ○ $9+9=18$ ○ $9+3=12$ ○

3だん目: $17+18=35$ なのに $25 \rightarrow \times$ $18+12=30$ ○

× の 25を ぐるっと かこむ。正しい 数は 35。

直した 下の 数: いちばん 下は $35+30=65$

まちがいがあるので「まちがいなし」の □は 空け。ぜんぶ 合って いたら ○。



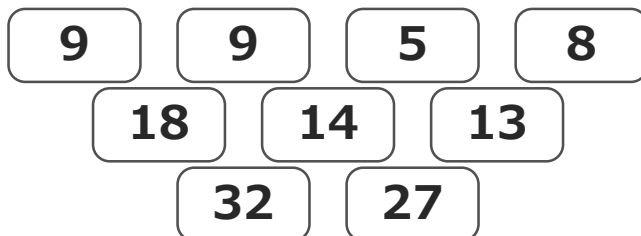
(1)

54

まちがいなし

正しい 数

直した 下の 数



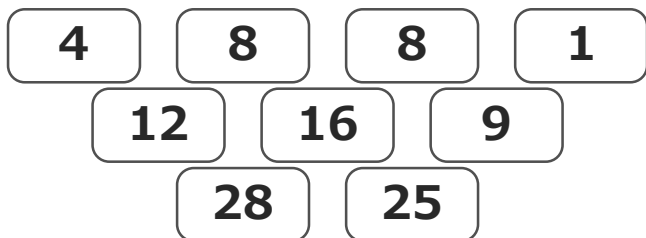
(2)

59

まちがいなし

正しい 数

直した 下の 数



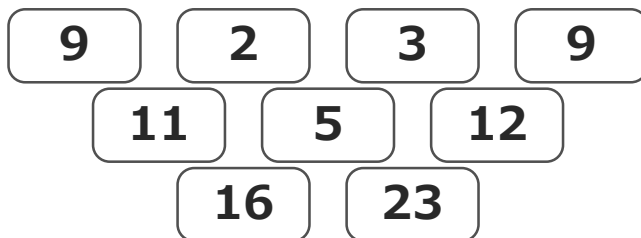
(3)

53

まちがいなし

正しい 数

直した 下の 数



(4)

39

まちがいなし

正しい 数

直した 下の 数



ぶどう算の まちがいさがし 五【こたえ】

まちがいがない こともある

なまえ _____

ひづけ _____

こたえ(赤い 字や 丸が 書く ところ)

どこが まちがいかな・なぜかな・どう 直すか

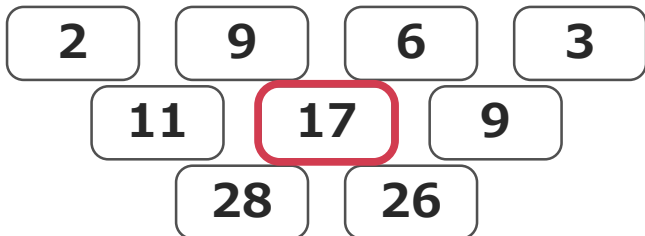
- (1) 2だん目の 左から 2ばん目の ますの 17が まちがい。上の 9と 6を たすと 15。だから 正しい 数は 15。
まちがえ方:9+6の 一の位を たしまちがえた(十の位は 合っている)。直す と 3だん目は
26、24、いちばん 下は $26+24=50$ 。
- (2) まちがいなし。どの ますも 上の 2つを たした 数に なっている。「まちがいなし」の
☐に ○。ほかの ☐は あけたまま。
- (3) まちがいなし。どの ますも 上の 2つを たした 数に なっている。「まちがいなし」の
☐に ○。ほかの ☐は あけたまま。
- (4) 3だん目の 左から 2ばん目の ますの 23が まちがい。上の 5と 12を たすと 17。だから 正しい 数は 17。
まちがえ方:となりあう 5と 12でなく、間に 1つ はさんだ 11と 12を たした。
直す と いちばん 下は $16+17=33$ 。
ポイント:まちがいの 下の ますが 合っ て 見えるのは、まちがえた 数 を 使っ て たし て あるから。だから 上の
だんから じゅんに しらべて、はじめて 合わない ますが 出発点。

おうちの方へ

採点は ①かこんだ ます ②正しい 数 ③直した 下の 数 の3つです。かこみ方(ますの まわりを
かこむ・ますの 中に ○を 書く)は どちらでも 正解です。

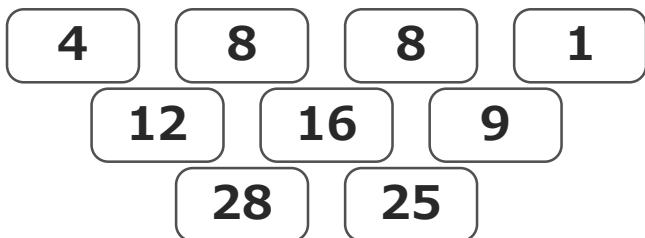
まちがいなしの ぶどうは「まちがいなし」の ☐に ○だけが 正解です。「かならず 1つ ある」と 思い込んで
いないか 見て ください。まちがいなしの 問題は 検査の あとが 紙に 残らないので、『ぜんぶの ますを
しらべた?』と 声を かけて ください。

声かけの例:『どの ますから しらべた?』『下の ますは 合っ て いるのに、どうして ここが まちがいと
分かったの?』『直したら 下の 数は どう 変わった?』



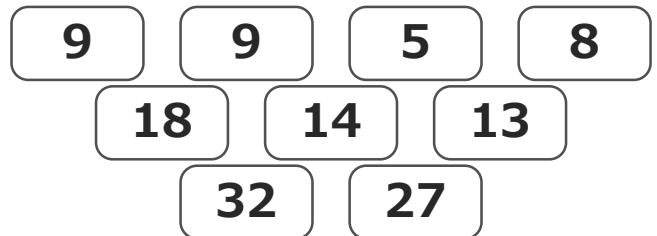
(1) 54 ☐ まちがいなし

正しい 数 15 直した 下の 数 50



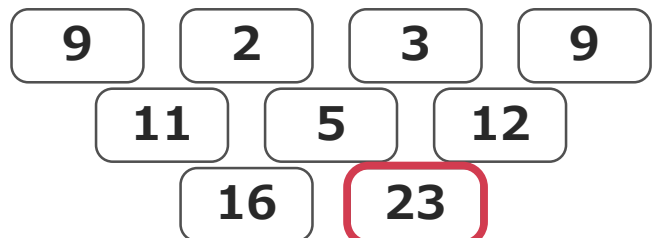
(3) 53 ☐ まちがいなし

正しい 数 直した 下の 数



(2) 59 ☐ まちがいなし

正しい 数 直した 下の 数



(4) 39 ☐ まちがいなし

正しい 数 17 直した 下の 数 33